

川野夏橙(甘夏)中間台カンキツの高接更新法

県果樹試験場 常緑果樹部(現、農研センター果樹研究所常緑果樹部)

研究のねらい

高接更新カンキツの生産安定、品質向上技術の確立を図るため、甘夏を中間台木とした場合の接ぎ木方法について、接ぎ木の活着と生育、収量、果実の品質の面から検討した。

研究の成果

1. 甘夏中間台のカンキツは、温州中間台に比べて明らかに劣るとされていたが、ネーブル、いよかん、清見のいずれも活着は良好で、その後の生育も順調であった。果実の品質も温州と同等かやや優ることから、中間台として十分利用可能である。
2. 接木法では、早期に樹冠を拡大し多収量を上げるには側枝接ぎ(友沢式)が良いが、穂木の量や中間台の樹令、樹勢、接ぎ木技術の程度により方法を変える必要がある。
3. 甘夏は樹皮がうすいので、台木の切り込みに当たっては十分の注意を払うとともに、枯れ込みもひどいので日焼け防止も含めて、台木の保護に努める。
4. 接ぎ木前には、中間台の樹勢の維持強化に努めるとともに、接ぎ木後の枝梢の管理や支柱立て、病虫害防除を徹底する。なお、甘夏はトリステザウイルスを保毒しているためウイルス感受性の高い品種は避ける。



図1 高接の方法

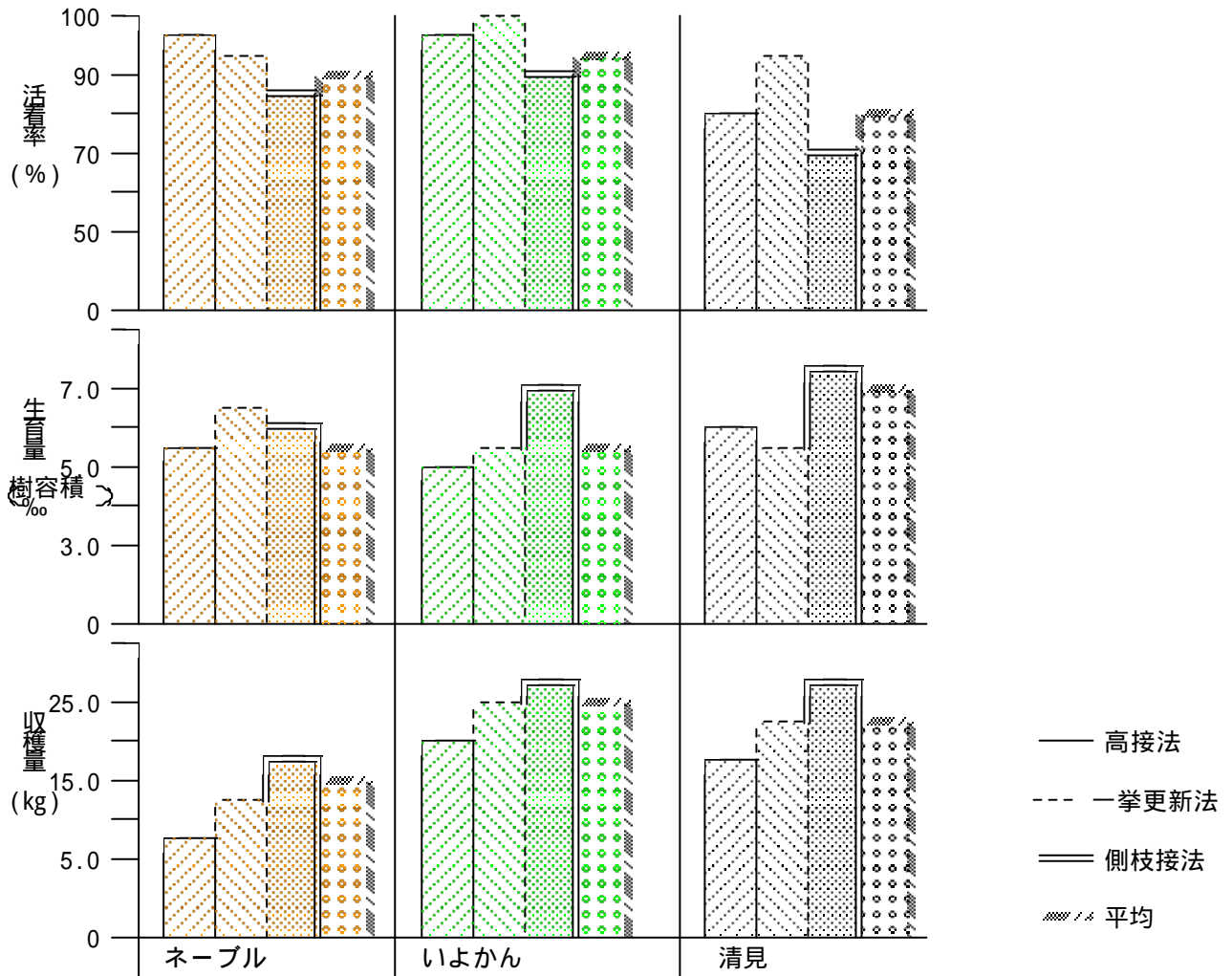


図2 甘夏中間台カンキツの生育状況

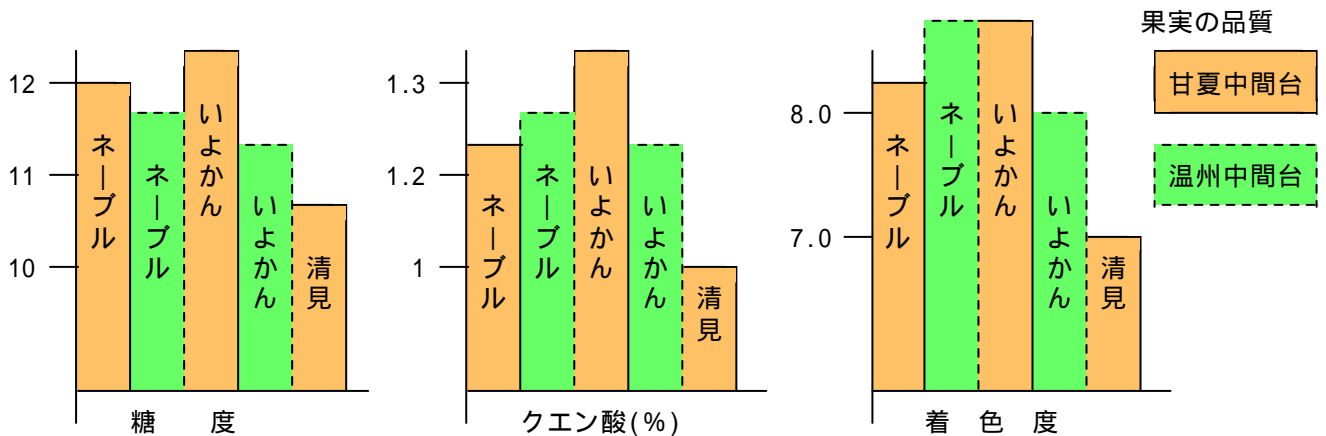


図3 果実の品質